

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保全緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。しかし上流の水質が悪く、改善していく必要があります。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパス、新滝山街道のほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっています。このことから、大気汚染の状況にも注視しています。近年は、濃度が改善傾向にありますが、16号バイパスの一部ではまだ数値が高い地点が見られます。

その他にも、人目に付きにくい場所へのごみの不法投棄対策や環境保全意識の啓発、地区の貴重な自然・文化・歴史を知る機会の提供など、さまざまな分野でITツールを活用した対応を行っていく必要があります。

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

市の川の清掃デーと合わせて、地元自治会と協働して町内の環境パトロールと清掃活動を行いました。手入れが十分に行われていない部分では、住民の生活道路としても多用される河川沿いの道路にアメリカオニアザミ、オオキンケイギクやワルナスビなどの外来生物が繁殖域を拡大しているのが見受けられるため、適宜駆除を行いました。



清掃活動

2 緑地保全活動

地区内の環境活動団体と協働して都の緑地保全地域（3か所）、市の緑地（3か所）等の保全・整備活動を実施しました。また、大谷緑地保全地域で5地区目の二巡目となる皆伐を行いました。

3 環境教育・環境学習などの推進

宇津木台小学校の児童に、多摩川で自然を学ぶ授業の支援を計画しましたが、天候に恵まれず、今年の実施できませんでした。児童の皆さんが楽しみにしているものなので、来年度は是非実施したいと考えています。また、市内の他団体と協働して、大和田小学校、第八小学校を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を実施し、楽しみながら自然を体験し学ぶ場を提供しました。



谷地川旧河川のアメリカオニアザミ

東京グリーンキャンパスプログラムに参加し、東京都立大学の学生を対象に、緑地保全の基本や様々な保全活動を紹介し実践しました。また、東京グリーンシップアクションでは、企業の皆さんを対象に、緑地保全の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

4 大気汚染測定

都内一斉調査日に、地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所等を対象に、二酸化窒素濃度の定点調査を年2回（6月、12月）実施しています。担当者8名で、45地点（うち17地点は平成16年環境市民会議発足当初から継続して測定）を測定しました。各調査地点の濃度は減少傾向にあります。幹線道路沿いでは高めの数値が観測されているため、今後も定点測定を継続していきます。



大気汚染測定の交差点

5 地域との協働活動の推進

環境市民会議を知ってもらうため、石川・加住市民センターで市民会議活動パネル展示と入会勧誘を行いました。環境フェスティバルでは、活動内容の紹介パネル展示、花苗の配布、谷地川の生物展示、身近な道端の花を使った押し花のしおり作成・配布などを行いました。また、駆除を呼び掛けている生態系被害防止外来種の「アメリカオニアザミ」を展示し、身の周りに危険な存在があることを知らせて、駆除の必要性を理解していただきました。会場に大型ディスプレイを設置し活動内容を映像化したものを流しました。来場された方に環境市民活動への参加の動機付けとなることを期待します。



市民センターでのパネル展示

■ 特色のある取組

(1) 自然体験講座

秋季に滝山城跡の自然と歴史を紹介する講座を、春季に滝山自然公園と高月の田園を散策する講座を開催しました。

(2) 活動の発信

広く活動内容を知ってもらうため、動画の配信を行いました。また、動画の二次元コードを印刷したカードを作成し、配布しました。パンフレットだけではなく、動画により手軽かつ効果的に理解の促進を図りました。今後も、デジタルツールを活用した取組を推進していく必要があると考えています。



活動の紹介



アメリカオニアザミの駆除



自然体験講座